

航空保安対策を日々適切に実施するためには、その根幹となる「人」を育てることが重要

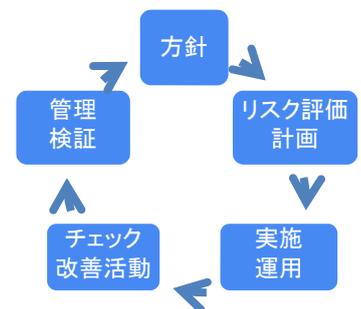
<航空保安の向上のための対策>

## SeMSの考え方による自律的なリスク発見・予防対応の強化

SeMS( Security Management System : 保安管理システム)等の有効なリスク管理方法について、国としても十分研究し、航空会社等に事前のリスク発見・予防を働きかけていく。

SeMS(Security Management System : 保安管理システム)

- 保安を日常業務及び全体のマネジメントの中に組み込む  
→ **現場、マネジメントの両方で「考えるプロセス」構築へ**
- リスク評価に基づき、リスク管理目標を設定しその達成を目指す  
→ **単なる法令遵守から自律的な事前のリスク発見・予防へ**



※ 国際民間航空機関(ICAO)においても、SeMSは、保安管理に有効な方法であるとされている

## 空港設置者の空港全体の立場に立った保安責任の発揮 航空会社等の空港等現場における保安責任者の位置付けと役割の明確化

空港設置者は、空港における各保安主体の保安対策を統括し、空港全体としての航空保安を向上させる。航空会社等においては、空港等ごとに保安責任者を配置し、その現場の保安業務を統括させる。国は、かかる現場における連携と役割分担に必要な環境整備を行う。

## 保安検査の品質確保のための受託警備会社の決定のあり方

保安検査等の品質を確保できるよう、過去のパフォーマンスの評価、教育訓練の実施状況、自主監査も含めた品質管理の考え方を考慮して、受託警備会社と契約する。

## 航空貨物の荷主の信頼性確保の徹底

航空貨物に係る保安対策を講じる者として認定を受けた航空貨物利用運送事業者等は、荷主の信頼性確保のための措置を徹底する。

## 国による教育訓練内容の充実と対象者の拡大

(内容) 従来の規程類の理解に加え、事前のリスク発見・予防、事案発生時の対応力等を重視  
各保安主体の現場のノウハウ等も活用

(対象) 各保安主体の教育訓練責任者に加え、各現場の保安責任者が受講できるように、順次拡大

※ eラーニングの活用により、より幅広い対象者にそれぞれに応じた教育訓練を提供することも検討

## 国による監査体制の強化